

高倉健

網走番外地

懐かしの35mm
フィルム上映

飛車角と吉良常

鶴田造二
高倉健

次郎長三国志

鶴田浩二

平成27年度文化庁優秀映画鑑賞推進事業
名作映画が1日見放題!

1,000円で
見放題!

みはま映画劇場

不知火検校

中勝
新村
太輔
緒郎

平成27年8月5日(水)

千葉市美浜文化ホール
メインホール

9:00-10:42 次郎長三国志

チケット好評販売中!

(自由席/入替制)4作品通し券 1,000円 作品券 500円
お寿司弁当付き通し券 1,800円 (お茶付)

※お弁当付き通し券の販売は8月2日(日)までとなります

※お弁当のお引換は「網走番外地」終演後となります

11:10-12:41 網走番外地

美浜文化ホール 043-270-5619

13:30-15:12 人生劇場

千葉市民会館 043-224-2431

飛車角と吉良常

市文化センター 043-224-8211

15:40-17:11 不知火検校

若葉文化ホール 043-237-1911



イメージ写真

お近くのセブンイレブンで購入可能な
HP予約もご利用ください。 <http://www.mihamahall.jp>

平成 27 年度文化庁優秀映画鑑賞推進事業
名作映画が 1 日見放題!

みほとま映画劇場

次郎長三国志



9:00~10:42 (1963年／監督：マキノ雅弘／東映／102分)

講談や浪曲など大衆芸能の世界で広く知られている幕末の博徒、遠州清水港の次郎長とその子分たちの活躍を描いた痛快時代劇。

監督のマキノ雅弘は1952年から54年にかけて『次郎長三国志』(東宝)9部作を作り、次郎長ものの決定版との評価が高い。東映のこの作品はそのリメイク版にあたり、4部作として製作されている。

マキノ監督にとっては手慣れた素材であり、流れるような巧みな演出で男意気の世界を作り出している。

東映が時代劇から任侠映画へと比重を移しつつあった時期もあり、配役も次郎長(鶴田浩二)、大政(大木実)、法印大五郎(田中春男)、関東綱五郎(松方弘樹)、桶屋の鬼吉(山城新伍)、増川仙右衛門(津川雅彦)、森の石松(長門裕之)という布陣は、そのまま大正時代劇ともいえる任侠映画の中核をなしていく。

網走番外地



11:10~12:42 (1965年／監督：石井輝男／東映／91分)

1963年、時代劇王国を築いていた東映は、時代劇からやくざ映画への転換を試み、やくざの意地や義侠心を描いたヒット作を次々と生み出して全国の若者たちを熱狂させた。

なかでも高倉健は、やくざ映画のヒット・シリーズに数多く主演して時代の寵児となる。

本作は1965年から1972年の間に計18作が製作された「網走番外地」シリーズの第1作。

極寒の網走刑務所に収監中の橋(高倉)は、妹や病身の母に再会することを夢見ながらまじめに服役しているが、悪辣な囚人仲間にそそのかされて脱獄計画に巻き込まれてしまう。

橋の更正を手助けする保護司役の丹波哲郎、「アラカン」の愛称で人気を博した時代劇の大御所・嵐寛寿郎、そして個性的な演技で脇を支える田中邦衛など、魅力的な俳優たちの競演も見所。

人生劇場 飛車角と吉良常 13:30~15:12 (1968年／監督：内田吐夢／東映／102分)



尾崎士郎の名作として知られる「人生劇場」のうち、特に「残侠篇」に焦点を絞って、巨匠内田吐夢監督が演出した作品である。青春の悩み、男女の愛憎、男の侠気、巡り会いなどを描いたこの小説は、きわめて映画的な題材であり、これまでにも14回にわたり映画化されている。

内田にとって題材としては2回目の挑戦であったが、中心となるのは青成瓢吉や彼をとり囲む文学の世界の人間たちではなく、飛車角や宮川、吉良常といった侠客たち、おとよ、お袖といった底辺を生きる女たちである。

今から振りかえれば、鶴田浩二、若山富三郎、藤純子、高倉健などこのジャンルにおいて一世代を築いた俳優たちが、そろって出演している点も意義深い。「キネマ旬報」1968年ベストテン第9位。

不知火検校



15:40~17:11 (1960年／監督：森一生／大映／91分)

盲目の按摩・杉の市が悪行の限りを尽くして地位と富を手にした末に、縛に就くまでを過激に描いた時代劇。主演の勝新太郎は、1954年に端正な顔立ちの二枚目役者としてデビューしたが、大きなヒット作に恵まれず不遇をかこっていた。

しかし本作において、勝は容赦のない悪漢を見事に演じ、みずからのスターイメージの転換に成功し、日本映画に新しい「異端のヒーロー」像を生み出した。本作における勝のヒーロー像は、その後はじまる「座頭市」シリーズに引き継がれて勝の生涯の当たり役となつたほか、田宮二郎とのコンビで人気を博した「悪名」シリーズや、「兵隊やくざ」シリーズへと発展してゆく。本作で共演した中村玉緒は1962年に勝と結婚した。

 美浜文化ホール 営業時間：9:00～22:00(窓口～18:00)／休館日：毎月第3月曜日(祝日の場合、翌平日)

施設お申込み、主催事業等の公演 お問合わせは

美浜文化ホール ☎ 043-270-5619

便利なオンラインチケット予約サービスをご利用下さい

WEBでご予約後、最寄りのセブンイレブンで購入いただけます。

WEB www.mihamahall.jp

最寄駅よりのアクセス

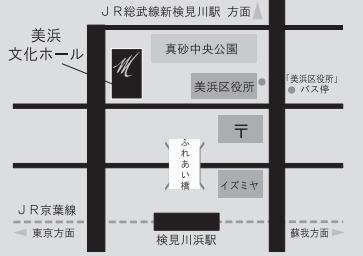
・JR京葉線 検見川浜駅 北口より徒歩 8分

・JR総武線 新検見川駅 南口よりバス※10分

※南口バスロータリー4番乗り場より乗車。3つ目

『美浜区役所』下車 徒歩1分

〒261-0011 千葉市美浜区真砂 5-15-2



千葉市美浜文化ホールでは、市民の皆様のご利用をお待ちしております

◆サークルの練習や教室の発表会に、自治会の集会や社内研修、

本格的なコンサートまで幅広く対応いたします。

メインホール(354席 / 車いす席3席含) 音楽ホール(152席 / 車いす席2席含)

会議室(45名) リハーサル室(床面 13m×13m) 練習スタジオ2室(完全防音)

